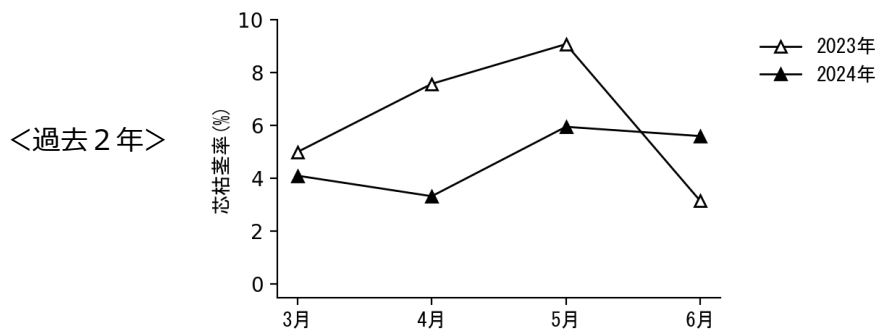
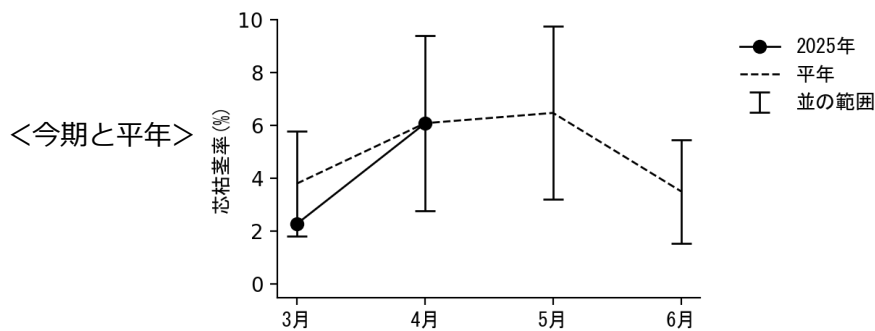


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ）		
調査結果	4 月の発生量（平年比）		並
予報	4 月からの増減傾向		→
	5 月の発生量（平年比）		並
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

芯枯茎率の推移（株出し）



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ（94%）、イネヨトウ（6%）
- ・発生ほ場率100%（平年：93.8%）

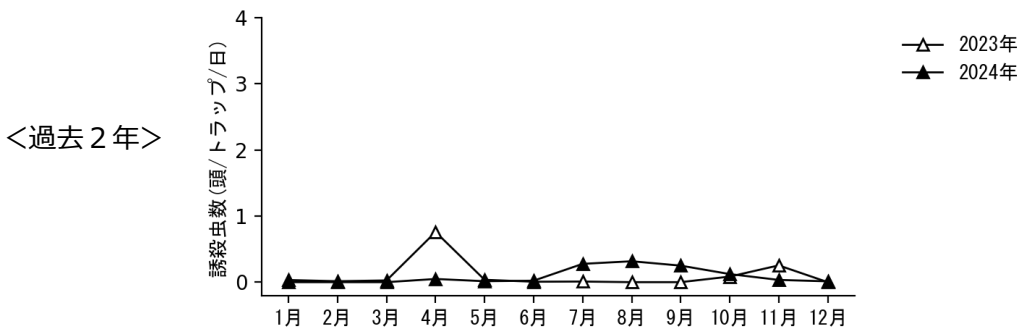
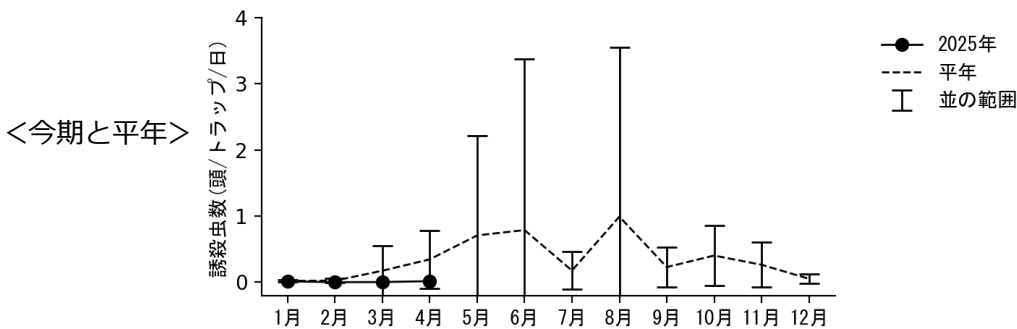
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予 報	4 月からの増減傾向	↗		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率100%（平年：50.0%）

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

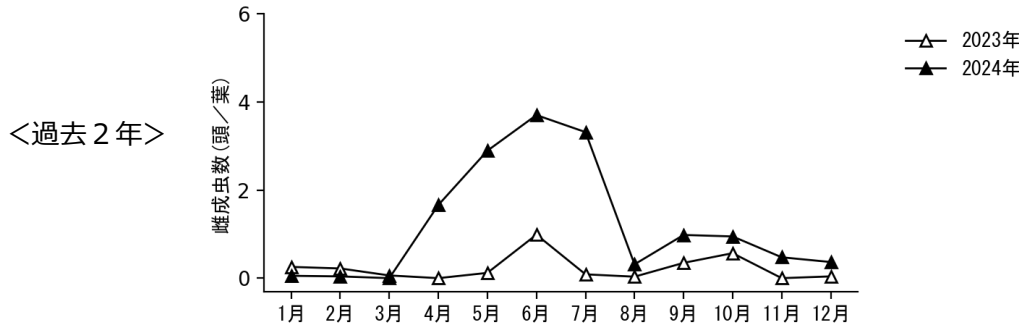
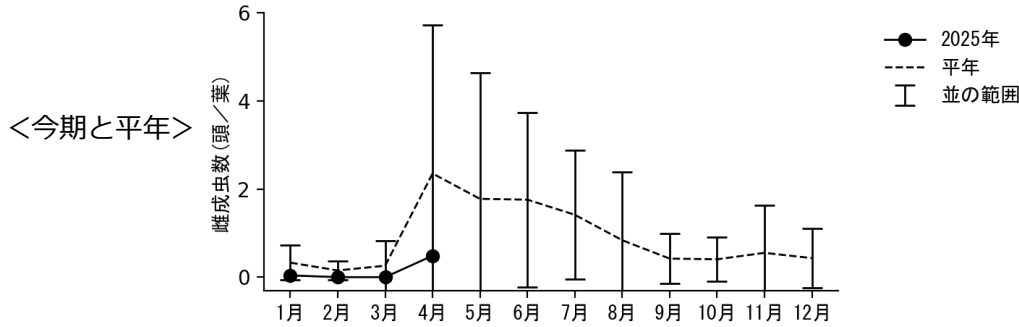


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類		 シュレイツメハダニ	
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予報	4 月からの増減傾向	↘		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率20.0%（平年：52.7%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

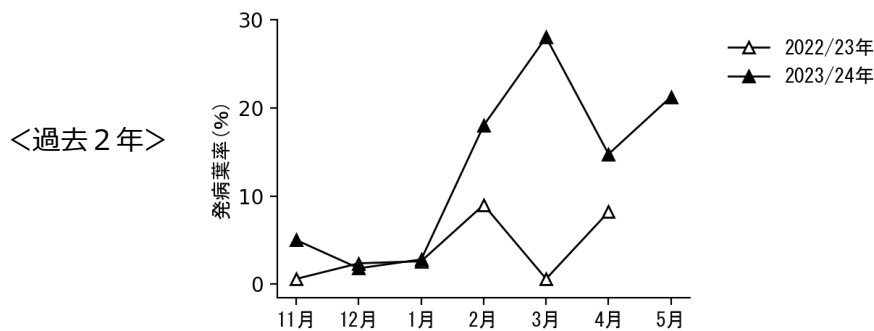
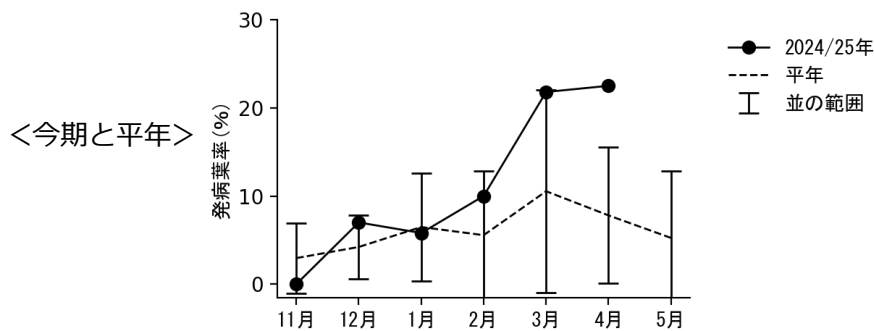


マンゴーツメハダニ

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	4 月からの増減傾向	↘		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

発病葉率の推移



- ・発生施設率100% (平年 : 42.9%)
- ・一部施設で多発

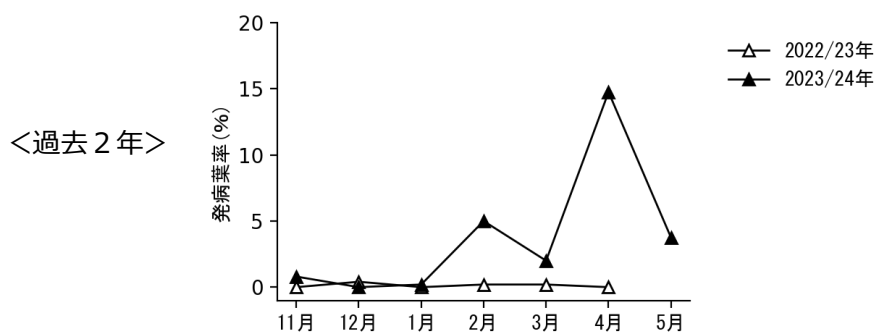
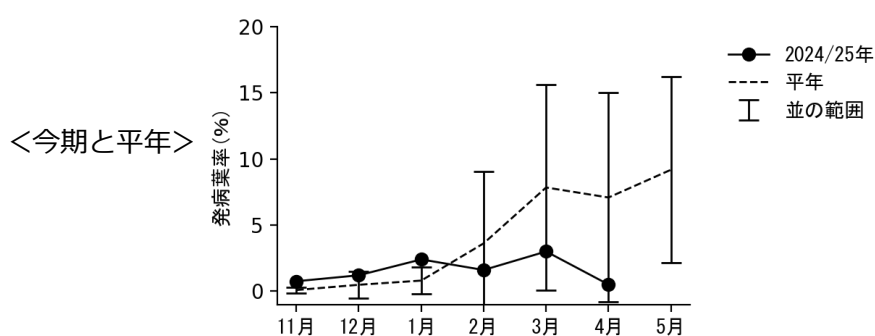
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	② 斑点病		
調査結果	4 月の発生量（平年比）		
予報	4 月からの増減傾向		
	5 月の発生量（平年比）		
予報の根拠		平年の発生量の推移（ㄦ）	

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率25.0%（平年：44.9%）

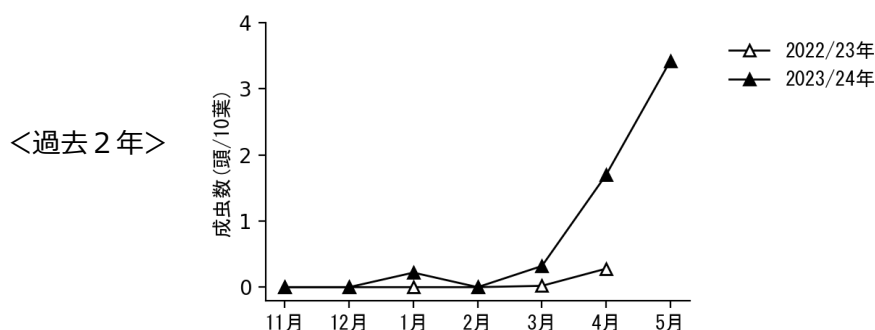
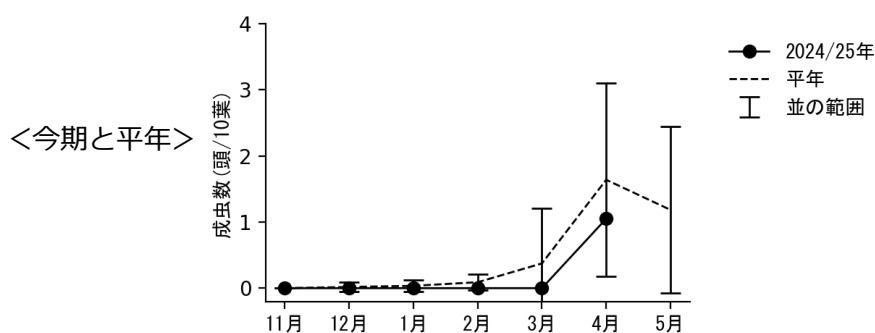
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予報	4 月からの増減傾向	↘		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率25.0%（平年：45.8%）

防除のポイント

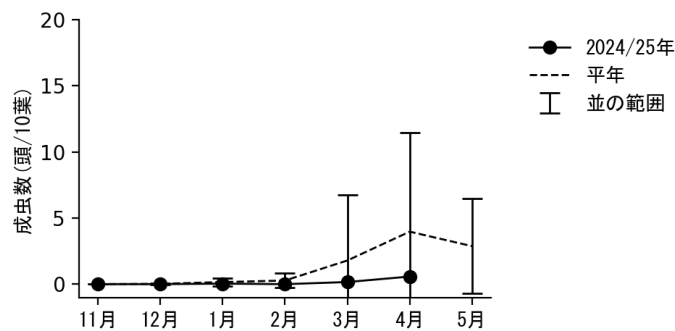
- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		 成虫	
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予報	4 月からの増減傾向	↘		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

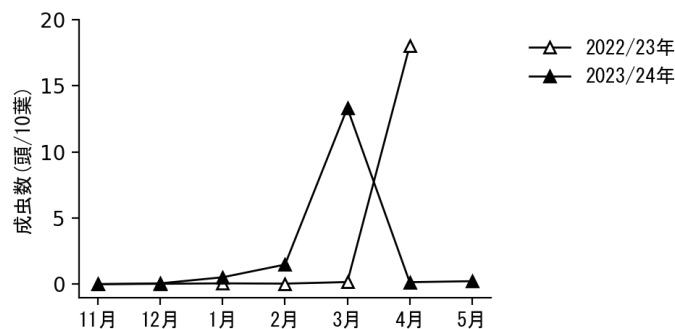
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率50.0%（平年：51.0%）

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

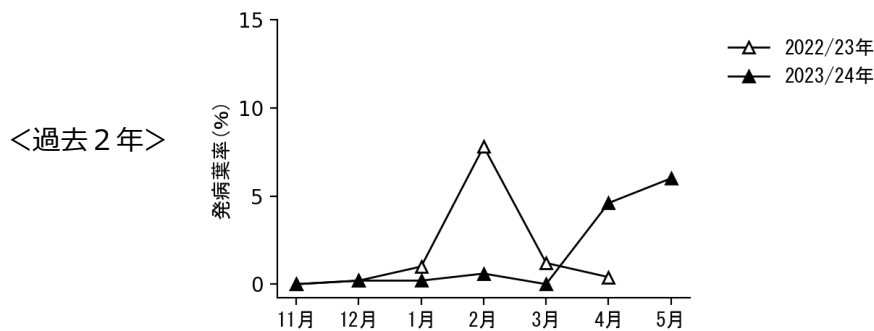
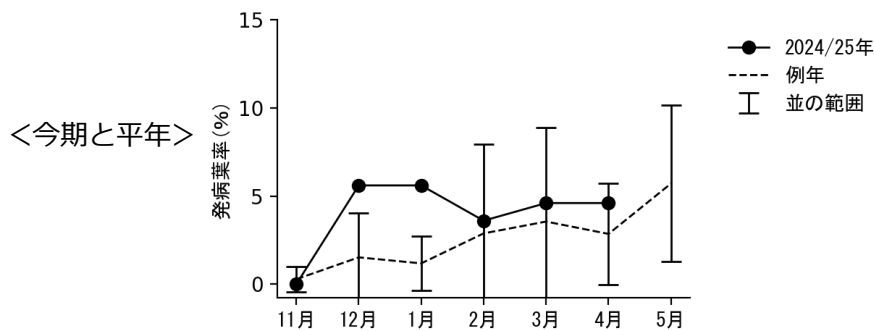


幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予 報	4 月からの増減傾向	↗		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率60.0%（例年：35.0%）

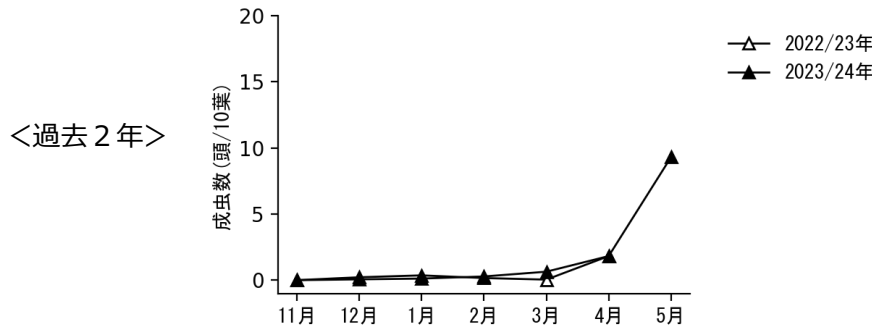
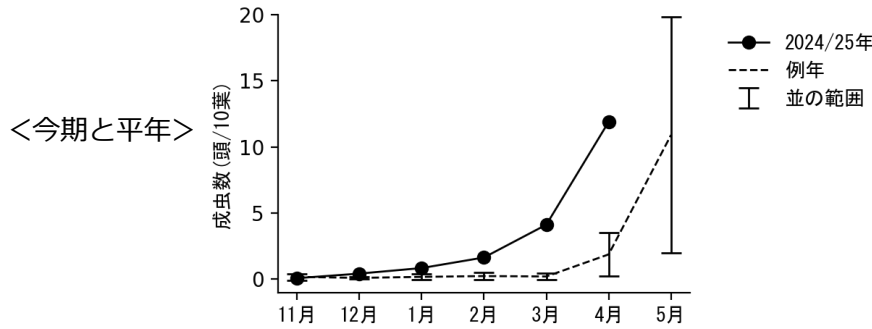
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量（平年比）		
予報	4 月からの増減傾向		
	5 月の発生量（平年比）		
予報の根拠		平年の発生量の推移（ノ）	

調査結果

成虫数の推移



- ・発生施設率80.0%（例年：65.0%）
- ・一部施設で多発

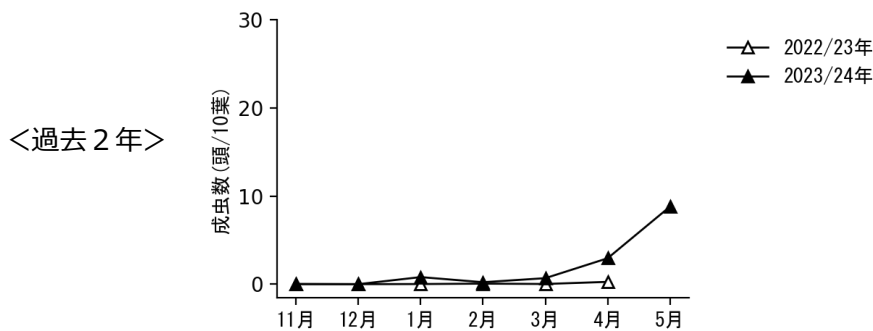
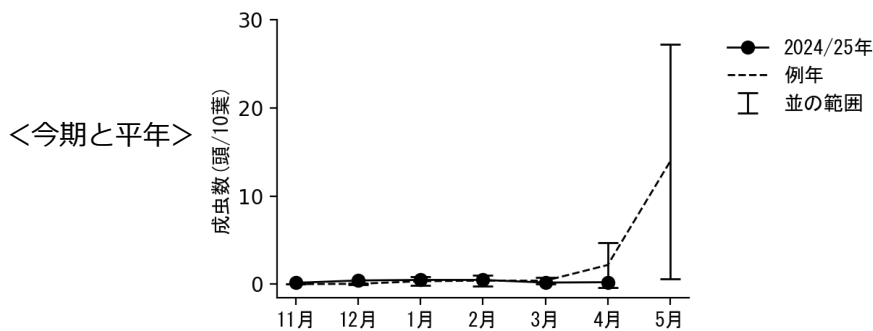
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		 成虫	
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予報	4 月からの増減傾向	↗		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率40.0%（例年：35.0%）

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



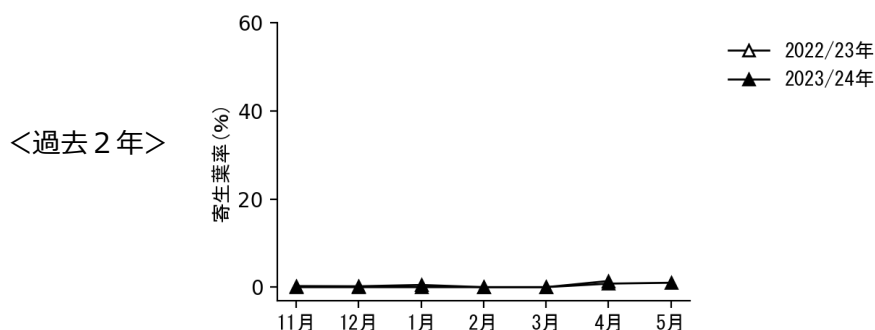
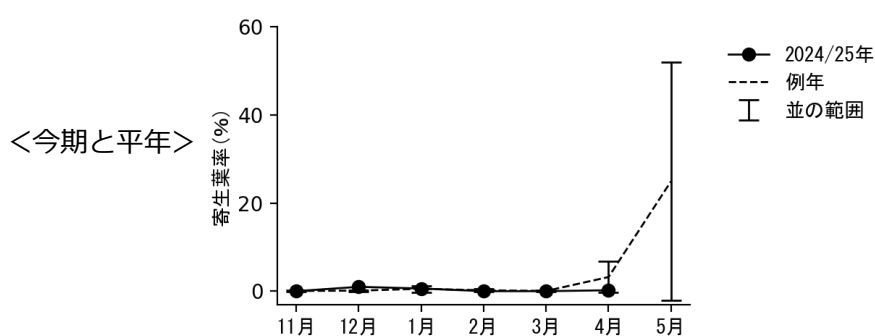
幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	



調査結果

寄生葉率の推移



・発生施設率20.0%（例年：35.0%）

防除のポイント

- ・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。



幼虫の死骸
（農薬などで死亡すると黒色に変色）